

2026年3月期 第1四半期決算説明会 主な質疑応答

日時：2025年8月1日（金） 17時30分～18時30分

Q：第1四半期の結果は会社計画対比でどうだったか

A：時計は米国の関税影響、また通常の主要通貨で想定以上に生産側の通貨上昇と販売側の通貨下落の影響が利益に響いた。Edtechは想定通りで、楽器についても今期は2Qで新製品の発売を含め伸ばす計画のため、大きな計画差はない。

Q：時計の米国関税の対応については、価格対応を実施しているか、他の地域も値上げを行うか

A：値上げは市場の状況等を見ながら第2四半期のしかるべきタイミングで行う予定。北米だけでなく各地域で見極めながらやっていく。

Q：時計の地域別で、これまで欧州は好調だったと思うが、1Qがマイナスの要因は。今後とも低調が続くと考えた方がいいか

A：欧州は堅調に伸びてきた市場で、現在はやや踊り場を迎えている。これまでフランスが牽引し、その成功事例をドイツに展開しながら伸びてきたが、イタリア、スペインでの動きもいいので、ここからもう一段上げていけるポテンシャルは十分にあると思っている。

Q：サウンド事業は、欧州で楽器店の倒産があったというコメントがあったが、直接的な影響はあったか。事業の先行きなど、3カ月前との比較でアップデートはあるか。

A：市場環境など厳しい状況であることは間違いないが、昨年下半年から実施している不採算エリアの撤退、ラインナップの半減などの構造改革を進め、収益を改善していく。

Q：新規領域のモフリンは業績にどれくらいインパクトがあるか。今後の展望と現状の状況は。

A：モフリンは非常に人気が高いため、生産体制を見直し増産することとした。まだ金額的に大きくないが、今後期待できるとしている。